

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071500922		
法人名	医療法人 完光会 今野病院		
事業所名	医)今野病院 グループホーム青葉	ユニット名	青葉Ⅰ 青葉Ⅱ
所在地	福岡県大牟田市青葉町12-11		
自己評価作成日	平成29年1月16日	評価結果市町村受理日	平成29年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成29年1月24日	評価確定日	平成29年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接に母体病院があり、看護職員も配置して、医師との連携もとれています、健康管理は心配ありません。グループホーム青葉の敷地には、自然が沢山、梅・杏・みかん・栗の木があります。山菜も採れ畑では野菜の収穫ができて、新鮮な季節の料理を作っています。花壇や玄関先は季節の花があり、絵手紙の教材になっています。職員も定着、利用者とのなじみの関係、信頼関係もできています。利用者とのコミュニケーションはもちろん家族とのコミュニケーションを多くとり、本人家族がいつまでも仲良く過ごせるようにしています。利用者は元氣な挨拶、笑顔と歌の絶えない明るいグループホーム青葉です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホーム青葉”の敷地には畑が作られ、入居者と一緒に野菜の収穫等を楽しんでいる。地域連携も深めており、民生委員の方が絵手紙教室をして下さり、季節を振り返る機会になっている。9月は夕涼み花火が行われ、理事長から長崎の中華街の花火を頂き、皆様に楽しまれたり、敬老会ではボランティアの方が大正琴を演奏して下さり、入居者と一緒に懐かしい歌を合唱することができた。クリスマス会では幼稚園児との交流もあり、両ユニットの職員がハンドベルの演奏を行い、楽しいひと時を過ごされた。日々の生活では車いすを利用される方も多く、医師や理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の意見を含めて介護計画の話し合いが行われ、立位訓練や歩行訓練等のリハビリを続けている。「お年寄りが好きです」と言う職員が多く、管理者と職員が情報交換を行い、職員の良い所を引き出しながらチーム作りに努めており、今後も「チームワーク」「適材適所での役割発揮」等を職員個々と面談し、理念の実践に努めていく予定である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定着している職員は、理念を実践しており、共有しているが、新人職員に対する理念の共有ができていない。入居者の介護度が高くなり、理念を話し合う必要が見えてきている。	18年に理念を見直し、「地域とのふれあいを大切にしながら 家庭的な雰囲気の中で その人らしく ゆったり 楽しく 自由な生活が送れるように支援します」という理念が作られた。地域交流を増やすと共に、「その人らしく」を大切に、喜怒哀楽の背景を丁寧に把握するように努めている。	入居者の介護度が高くなっているが、理念にある「その人らしく」や「自由な生活」という内容を大切にしたい関わりを続けている。今後も理念を大切にしながら、理念の内容の詳細な実践目標を検討し、明示していく予定である。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者は地域の秋祭り参加、職員は公民館班長会議、公園清掃、リサイクル当番、秋祭りの力仕事など地域に必要な一員となっています。	地域の大蛇山祭巡行や天満宮大祭等に参加している。勝立子供大蛇山はホームの庭まで来て下さり、入居者は頭の痛みが取れるように大蛇に頭を噛んでもらった。クリスマス会では幼稚園児との交流もあり、敬老会では大正琴のボランティアの演奏を楽しまれ、入居者も一緒に唄われた、	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の地域役員、絵手紙の講師の方など、認知症の理解や支援の方法など伝えていきます。大牟田市SOSネットワーク模擬訓練では認知症ミニ講座の講師を務めました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や行事の報告、日常生活状況、介護事故を報告しており、意見も含めマニュアルの見直しに生かしております	写真入りの資料で日々の取り組みを報告しており、参加者のご意見もあり、両ユニット共に嚙下体操を行うようになった。自己評価(外部評価)結果も報告し、評価の意義等も報告する機会になっている。介護相談員も参加して下さり、訪問時の感想を伝えて下さっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護事業部研修の講師は勿論、市職員コンチネンタルアドバイザーへ相談をして排泄改善し、よいケアへとなっています。保護課、包括支援センターより困難な事例の方の入居先がないため、利用開始となりました。	管理者が市役所を訪問して適宜相談しており、担当者が解決に向けた調整をして下さっている。市の職員から「認知症SOSネットワーク模擬訓練」の協力依頼もあり、認知症講座の講師等を務めている。地域包括の方から詐欺等の情報も教えて頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間不穏による、ベッドからの転落リスクが高く、一時的に四方を壁と柵で囲む拘束を行ったが、すぐ、対応策を考え家族に報告、転落リスクは残っているが、拘束によるリスクの方が高いと判断し、現在は拘束はしていない。	「身体拘束をしない」事を基本にしている。入居者が不穏になられた場合は、ご本人の思いや原因を把握すると共に、職員が側に寄り添い、安心に繋がるケアを続けている。「虐待の芽チェックリスト」を職員個々に記載し、日々の振り返りを続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	介護事業部研修にて、虐待防止を受けており、チェックリストを行い、日々のケアを振り返り、今回は職員のメンタル面ストレスマネジメント研修を行っています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護研修で学んでおり、利用者も後見人を利用されています。家族から相談され、活用にはいたりませんでした。説明、関係者まで取り次ぎを行いました。	職員は制度に関する外部研修に参加し、職員に伝達している。入居前から成年後見制度を利用している方もおられるが、入居時に家族全員に制度の説明をしている。必要に応じて母体病院の社会福祉士に相談し、家族との話し合いが行われている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、主に管理者が、利用者との面会、家族とも理解納得されるまで、何度でも説明しています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度、利用者、家族アンケートをしており、その中の意見や要望を取り入れています。アンケートの結果も運営推進会議で報告しています。	家族の面会時に職員から声かけしている。年1回のアンケートも行われ、入居者と家族それぞれの要望を伺う機会になっている。掃除や職員間の情報伝達状況等の指摘も頂き、改善策を検討して実践に繋げている。食事や外出の希望もあり、日々の生活に取り入れている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議の時や、管理者による個人面談時、日々のカンファレンス時に、意見や提案を聞き、新人マニュアルの見直しなど行っています	毎月の会議で情報交換が行われ、マニュアルの改善が行われた。4つの委員会活動も継続し、職員個々の良さを発揮して頂いている。人員体制の要望もあり、事務部長に適宜現状を報告し、職員の募集を継続すると共に、改善の可能性を模索している。	管理者は職員個々の長所を生かすように努めている。今後も個人面談の時間を増やし、職員個々の目標を設定すると共に、職員全員でチームワークの在り方を議論する予定である。法人主体のメンタルヘルス事業も活用していく予定である。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ぎりぎりの人数での仕事となっていて、人員の確保をお願いしているが、確保が困難な状況		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	法人代表者は、募集、採用にあたって制限はありません。職員の特技に合わせて、料理・手芸・工作・歌・体操など生き生き働いています	資格の有無は問わず、接遇面や言葉遣い、明るい方等を大切に母体病院(部長)で面接している。異動の可能性がある事もお伝えし、幅広い年齢層の職員を採用している。職員個々の長所を伸ばす事を大切にされており、資格取得(介護福祉士)のための勤務調整も行っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	認知症高齢者の人権についての研修は行っているが、人権教育・啓発活動の研修を行うように提案している。	理事長からは「自分の親と違って大切にしない」と等の指導が行われている。管理者等からも「入居者本位」という視点を伝え、ご本人に意思決定をして頂けるように努めている。29年度も人権教育・啓発活動の研修を行う予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護事業部研修の参加と全職員の外部研修を計画実施しています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護事業部研修や外部研修時に他事業所の人と情報を交換したり、大牟田市で行っている認知症ケア研究会などに参加し、サービスの向上につなげています		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は自宅へ出向き、本人が困っていること、不安な事を把握し関係づくりに努めています		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来た人から情報を聞き、必要時は訪問も行い、困っていること、不安な事、要望などを把握し、関係づくりに努めています		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」に、本人、家族、事業所関係者（管理者・ケアマネ・相談員）と相談しながら、その人に合ったサービスを考えています		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	思いやりや笑顔の大切さを学んでいます。食事と一緒に食べ、役割を持っていただき、必要な存在として関係性を築いています		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所された時に本人の様子を伝え、家族を忘れないように、普段から家族の話題をしています。又、家族の状況も伺い、本人に伝えていきます。行事の参加や外出なども勧めて、絆が切れないようにしています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	娘さんの店へ娘に会いにや馴染みの店で の買い物に行き関係が切れないように支援 しています	毎年のアンケートで「行きたい場所」等を確認し、馴染みのお店で衣類等を買われる方もおられる。友人が来られた時は、ご本人の以前のご様子等を教えて頂いている。ご主人の月命日に僧侶がお経を唱えて下さる方や、宗教関係の方がプレゼントを持って訪問して下さる方もおられる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者等把握し共有空間の場では、一人ひとりがみんなの顔が見れるように席を作っています		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方には、お見舞いに行き、今後の事を伺っています。亡くなられた方には、兄が一人で葬儀の打合せ等に困られ、葬儀、火葬の手配、市役所関係まで、一緒に行いました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用して、アセスメントしています。日常の会話の中から担当職員が主になり把握して、管理者や計画作成担当者と困難な時は本人本位に検討しています	入居者とゆっくり話すようにしており、食べ物や買物等の要望を伺っている。毎年のアンケートでも要望を伺っており、「草木饅頭が食べたい」「柳川に行きたい」等を把握し、希望を叶えるように努めている。意志疎通が困難な方は表情や行動を確認し、思いの把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族又は関わった包括職員、市職員より聞き取り、家まで出かけ、馴染みの暮らし方や生活環境の把握をしています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人より聞き取ったり、入居後の行動を把握するために、24時間シート使用し把握しています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者、担当職員、看護師、他の職員、本人、家族、後見人と話し合い、必要時は医師の意見や理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の意見を含めて話合っています	入居者と家族の要望を伺っている。主治医等にも助言を頂き、計画作成担当者が原案を作成している。自立支援の視点を大切に、リハビリ(立位訓練等)や「車いすを自分で駆動する」「人の役に立ちたい」「自宅に帰る」等も盛り込まれており、適宜見直しも行われている。	今後もアセスメント項目を増やし、ご本人のできる事、できそうな事、介助が必要な事(原因)、行動障害の原因、各活動の要望、解決策等も追記する予定である。センター方式も活用しており、書式の統一も行う予定である。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録用紙に項目欄を設けているので、気づきがわかるようにしている。体温表では本人の目標項目をつくり、ケアができているかのチェック欄がある		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時に生まれるニーズがある時は、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援に取り組んでいきます		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会やクリスマス会等ボランティア団体を活用し、幼稚園の園児も毎年参加されています		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体病院が隣接しており、常に医師と連絡がとれています。けれど夜間帯の緊急時は救急車対応となっています。他科受診は家族と相談しながら、出来ない所は事業所が受診介助しています	入居前から母体病院が主治医の方も多い。24時間、母体病院に相談ができ、夜間の緊急時は市立病院などに救急車搬送するシステムになっている。通院介助は職員がしているが、家族が受診支援される方もおられ、体調に応じて看護師等も同行し、主治医からの指示を聞いている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、日々の健康管理、状態は把握しています。24時間いつでも連絡できる体制にしています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病状、認知症の状態や1日の過ごし方等、事細かに情報提供しています。お見舞いに行き、家族と連絡を密にしながら、家族面談にも同席し、早期の退院に繋がるようにしています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期には随時本人、家族、医師、管理者、看護師と連携をとり、ホームで出来る限りの終末期に取り組んでいます。最後は母体病院へととなっております。	「看取りに関する確認書」を基にホームの方針を説明し、意向確認している。看取りケアの経験はないが、母体病院への転院ぎりぎりまで誠心誠意のケアが行われ、好きな果物等も食べて頂いた。往診もあり、医師と看護師、家族との連携が図られている。誤嚥対策も慎重に行われ、ホームの看護師やSTが嚥下状態の確認をしている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	大牟田市消防署の救急蘇生基礎講習を職員は受けており、胸骨圧迫法・人口呼吸法・AED操作・止血法・気道異物除去法等受講して、実践力を付けています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	凍結による断水被害と地震災害があり、体験をしたことで、断水の対応や地震時の対応を学ぶ事ができました。訓練にも参加され地域との協力体制はできています。	母体病院や高齢者マンションの職員、地域の方、消防署も訓練に参加して下さい、地域の方も自動通報されるようになっている。5月には地震想定訓練を行い、隣接するマンションへの避難訓練が行われた。災害に備え、隣接する母体病院で3日分の飲料水や非常食等を準備している。	ハザードマップを基に、自然災害の対応の検討が行われた。今後も更に自然災害に備えた自主訓練の機会を作り、職員全員が避難訓練時に冷静に判断し、行動できるようにしていきたいと考えている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「自分の親だと思って大切に」「自分がされて嫌なことはしない」が創立者の言葉であり、敬う気持ちを持ち、その方のペースに合わせ声掛けや対応をしています。	創立者の思いを基本にしながら、管理者も職員個々に「急がせない」「ゆっくり話を聴く」事などを伝えている。入居者に対して「～して下さい」等の指示語が出る時もあり、適宜注意が行われている。排泄時などの羞恥心への配慮も行われている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない日常の会話の中や入浴時に希望を言われる時があります。自己決定ができるような問いかけをするように心がけています		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の言動で希望を言える方は、好きな様に過ごしています。希望を上手く言えない利用者が多くなっているため、その方の気分や表情などで見極めています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合う服装を本人と選ぶようにしています。 出掛ける時やお正月等新しい洋服等家族にお願いしています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	だご汁やがめ煮などの郷土料理、菜園や小山で採れた野菜や山菜、栗など食卓に。職員も同じテーブルで食べています	朝夕は母体病院で調理し、昼食は調理担当の方などがホームで調理している。入居者も玉ねぎの皮むきやインゲンの筋取り等をして下さっている。旬の料理を大切にしており、畑のお芋で大学芋を作ったり、敷地内の栗で栗ご飯も作られている。おやつも手作りで、牛乳寒天等も好評である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝夕は母体病院の配食で、昼食のみホームで作っています。水分量は少ない方は測量しています。希望で好きな飲み物を飲まれている方もいます		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	往診歯科で、1年に1回は口腔健診を受け、必要時は治療につなげています。ほとんどの利用者の磨き直しやスポンジを使ったマウスケアを行っています		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、排泄パターンを把握しています。日中はトイレでの排泄を促しています。市職員と相談しながらその方に合ったオムツ使用を考えています	トイレで排泄できるように立位訓練等も続けている。排泄感覚や表情等も観察しながら個別にトイレ誘導し、心身状況に応じて2人介助もしている。市役所のコンチネンタルアドバイザーからも様々なアドバイスを頂き、夜間も下着(パット)等に変更できた方がおられる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳かヨーグルトは毎朝付いています。野菜を多く献立にいれ、排泄パターンを把握して、排便誘導、腹部マッサージを行っています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在の利用者のADL状態での楽しむ入浴が出来ているとは言えない。車椅子対応の機械浴の導入が実現できるように働きかけています。	お風呂好きな方が多く、入浴の順番や湯温の希望に応じている。入浴時は職員との会話を楽しませ、「炭坑節」等の歌も聞かれています。1つのユニットは浴槽が大きく、シャワーのみの対応になっている。身体が冷えない配慮をしているが、座位式の機械浴槽等の検討を続けている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲労感やウトウトしている方は日中でも休んでもらっています。部屋では怖くて眠れない方には、ホールのソファベッドで休まれています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとり一人の薬の拡大写真を作り、薬説明書と共にファイルしています。薬の変更時には日誌等で申し送りし、変更後の記録を記入するようにしています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	干支の絵を描かれる。青葉の玄関札の絵をお願いしたり、歌を唄われる。洗濯物たみ等、コーヒー、紅茶、牛乳など、散歩や買い物に出かけています。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの散歩やドライブなど出かけています。お菓子や洋服などの買い物にも出かけています。正月やお盆は家族に促し外泊や外出されています。	気候の良い時はホーム周辺を散歩し、ホームの畑で野菜の成長を楽しまれている。散歩の時は職員がお花を摘み、リビングに飾られている。受診の帰りに花屋でお花を眺めたり、季節に応じて花見や鯉のぼり見学などに行かれている。家族とドライブに行かれたり、毎週、自宅でご主人と過ごされる方もおられる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使用できる利用者には、買い物時財布をもっていかれ、自分で支払されています。お金が少なくなった時は、本人と相談しながらお金を持っています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も掛けたいと言われる時は、ダイヤルを押し相手の確認をして本人に代わり、内容が理解できない場合は、意味を訳して伝えます。絵手紙の年賀状は送っています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の鉢花を置き、光が強い時はすだれを使用しています。ホールも季節の飾りつけをして、季節がわかるように、また利用者の写真を掲示しているので、毎日年齢と名前話題があります。	入居者はリビングで過ごされる方が多い。廊下にも椅子やソファを置き、入居者同士で団欒されている。車椅子の方も多く、職員が車椅子の高さに合わせたテーブルを作る等、職員のアイデアを活かした工夫を続けている。入居者の干支の飾りに写真を掲示し、会話のきっかけにされたり、絵手紙なども貼られている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置を考えたり、テーブルの席は気の合う人同士にしています。テレビが好きな人はテレビの前へ、音楽が好きな人はステレオの前へと思思いの所で過ごされています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自称「坊さん」と言われる利用者は、袈裟や衣、経本、数珠など持って来られいつでも念じられるようにしています。手作りの手芸品や花が好きな方はプリザーブドフラワー、お気に入りのぬいぐるみは、洋服を着替えていつも一緒です	自宅で使用していた鏡やテレビ等を持ち込まれている。ベッドで過ごす事が多い方は、ご自分で編まれたバックや“さげもん”等を天井から下げて、ご本人が眺める事ができるようにしている。家族の写真や仏壇等の大切な物も置かれ、月命日には僧侶の方がお経を唱えて下さっている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子生活者が増え、自走できる方には、障害になる置物を減らし、シルバーカーを使用される方には近くに置きいつでも動けるようにしています。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				